国　　語

1　学習指導と評価の改善・充実

～平成25年度「北海道高等学校学力向上推進事業」学力テスト（Ｃモデル国語）の分析結果と指導上の改善点～

(1) 学力テストの概要

ア　目的

全ての生徒に対し、社会的、職業的自立に最低限必要な学力を保証するとともに、能力・進路等に応じた教育を提供するため、実用的な教材を開発するとともに、生徒の学習内容の定着状況を把握すること。Ｃモデルでは、基礎的・基本的事項の定着状況を測ることを目的としている。

イ　出題科目

「国語総合」

ウ　問題の領域等

全ての領域において、高等学校学習指導要領の指導事項に基づいて出題した。特に、「話すこと・聞くこと」の領域において、聞き取り問題を出題した。

エ　参加校

本事業の推進校、協力校等54校の第１学年約3,500人

(2) 内容・領域別分析結果

ア　「話すこと・聞くこと」

「目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。」に課題が見られた。特に、話し言葉に含まれる多くの情報から、必要なことを過不足なく聞き取る力が十分身に付いていない。

イ　「書くこと」

「論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。」に課題が見られた。

ウ　「読むこと」

説明的な文章及び文学的な文章に対して「文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。」は十分身に付いていない。また、記述式の問題において、選択式の問題よりも無回答数が多かった。

エ　「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

「文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。」はほぼ身に付いているが、古典において「文語のきまり、訓読のきまりなどを理解すること。」は十分に身に付いていない。

(3) 学力テストの結果を踏まえた改善の方向

次に示す「平成25年度『北海道高等学校学力向上推進事業』学力テスト（Ｃモデル国語）の結果に基づく指導上の工夫・改善」や「２　『確かな学力』を育成する取組の改善・充実」の具体的な取組を参考にするなどして、学力テストの結果から明らかになっ

た事項について、指導の工夫・改善を図ることが重要である。

平成25年度「北海道高等学校学力向上推進事業」
学力テスト（Cモデル国語）の結果に基づく指導上の工夫・改善

	結果に基づく課題	指導上の工夫・改善
話すこと・聞くこと	●目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。	◎状況に応じた話題を選んでスピーチしたり、資料に基づいて説明したりすること。 ◎調査したことなどをまとめて報告や発表をしたり、内容や表現の仕方を吟味しながらそれらを聞いたりすること。
書くこと	●論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。 ●記述式の問題における無回答が多いこと。	◎出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと。 ◎文章を書き綴る中で、自分の考えがまとまっていき、更に緻密なものや確固としたものになっていることを生徒に実感させること。
読むこと	●文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。 ●記述式の問題における無回答が多いこと。	◎文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。 ◎文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●文語のきまり、訓読のきまりなどを理解すること。	◎文語文法のみの学習の時間を長期にわたり設けるのではなく、読むことの指導に即した指導を心掛けること。

※「結果に基づく課題」の各項目は、十分に身に付いていないと考えられる事柄

Topic

士別翔雲高等学校の取組

～ 平成25年度国立教育政策研究所教育課程研究指定事業 ～

士別翔雲高等学校は、国立教育政策研究所の教育課程研究指定校事業の指定校として、１年間、国語科の指導方法等について調査研究を行い、指導の改善充実を図りました。

授業の様子

研究主題

古典に対する生徒の学習意欲を高めることをねらいとした学習指導及び学習評価の在り方に関する研究

取組の内容

○ **授業の工夫・改善**
- 導入部の工夫：学習の動機付けを行う活動
  【指導事例】絵巻を加工した紙芝居の読み聞かせ、日記文学とブログとの比べ読み　等
- 音読の重視：言語感覚を豊かにする活動
  【指導事例】ペアワークによる音読、個別に発声する漢文の訓読テスト　等
- グループ学習の活用：生徒の理解を深める活動

○ **教員研修による指導力向上**
- 定期的な教科会議の開催　・研究授業の実施　・他校における先行事例の視察

研究成果

興味・関心を持って授業に取り組む生徒の増加	分析的理解に偏らない文脈把握力の育成	校内外の研修による教員の指導力の向上

２　「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

～平成25年度「北海道高等学校学力向上推進事業」学力テスト（Ｃモデル国語）の結果から明らかになった課題の解決に向けた推進校の具体的な取組～

(1)　「学力テスト」を活用した「話すこと・聞くこと」に関する指導の改善・充実

ア　単元における指導と評価の計画の例

1　単元名　必要な情報を聞き取ろう

2　単元の目標

・目的や場に応じて、的確に聞き取ろうとする。（関心・意欲・態度）
・目的や場に応じて、的確に聞き取っている。（聞く能力）
・身近な言語生活における、言語の役割を理解する。（知識・理解）

3　取り上げる言語活動と教材

（1）言語活動　会話や説明を聞く際に、聞き手が必要なことを的確に聞き取るための留意点や態度について話し合う。
（2）教　　材　「北海道高等学校学力向上推進事業『学力テスト』（Ｃモデル）」国語の聞き取り問題

4　単元の具体的な評価規準

関心・意欲・態度	聞く能力	知識・理解
目的や場に応じて、聞き手が必要なことを、間違いなく、過不足なく聞き取ろうとしている。	目的や場に応じて、聞き手が必要なことを、間違いなく、過不足なく聞き取っている。	聞き取った内容や効果的な表現の仕方について理解している。

本単元においては、自己評価や話し合いを通して考察した、聞き手が必要なことを、間違いなく、過不足なく聞き取るための留意点や態度に基づいて実施した聞き取りの結果が、「おおむね満足できる」状況を「Ｂ」として、「Ｂ」の状況からの高まりが見られた場合を「十分満足できる」状況「Ａ」と判断します。

5　単元の指導計画

次	学　習　活　動	言語活動に関する指導上の注意点
	本単元では、「北海道高等学校学力向上推進事業」で作成した聞き取り問題を活用して、目的や場に応じて、的確に聞き取る方法について話し合う。	・１年間を通じて、様々な場や相手、方法を想定した聞くことの指導を15～25単位時間程度実施する。 ある時期にまとめて行うのか、短時間ずつ継続的に行うのか、生徒の実態に応じて適切に定めます。
第１次	・聞き取り問題を実施後、配付された正答表により自己評価する。 ・自己評価を基にペアで相互評価した後、全体で交流する。	
第２次	・教師から示された前時の聞き取り問題の状況を踏まえ、目的や場に応じて、必要なことを的確に聞き取るための留意点や態度等について、ペアで話し合う。 ・話し合った結果に基づき、別の内容で聞き取り問題を行い、前回の結果と比較して自己評価する。	・ペアによる話し合いを基に考えた的確に聞き取るための留意点や態度等が、より適切なものであったのかを振り返る時間を設ける。 【評価Ｃの生徒への手だて】 話の中心に気を付けたり、話し手の意図をとらえたりすることなど、具体的な助言をします。

【参考資料】

1聞き取り

〈試験監督　読み上げ〉
これから、**1聞き取り**の問題を行います。この後、放送機器を使い、音声を流しますので、音声の中の会話とそれに対する質問をよく聞いて、解答してください。
（音声スタート）

これから、聞き取りの問題を行います。この後の会話とそれに対する質問をよく聞いて、解答してください。
会話も質問も、一度しか読まれませんので注意してください。
なお、メモを取ることはできます。問題用紙の余白を使ってください。
それでは始めます。

ホームルーム担任と生徒との会話
担任「おはようございます。それでは今日の連絡をします。連絡事項は三点あるのでよく聞いてください。
まず今日の時間割が変わります。二時間目の数学ですが、先生が出張のため、国語になります。急なことなので、教科書はなくてもかまいません。
二点目は、生活委員会を昼休み一時十分から会議室で行います。生活委員は筆記用具を持って五分前には会議室に集合してください。
最後に、最近、本校生徒の自転車の乗り方が悪いと近所の方から苦情がきています。ですので、次の二点に注意してください。一つめは、イヤホンで音楽を聞きながら乗らないこと、もう一つは、携帯電話を使用しながら乗らないことです。
なお、私は、出張で午後からいなくなります。早退など、用事がある場合は副担任の山田先生に伝えてください。」
生徒「先生、昼休みサッカー部のミーティングがあるんですが、どうしたらいいですか。」
担任「もちろん委員会を優先してください。顧問の先生には私から話しておきます。」
生徒「教室掃除はどうするんですか。」
担任「みなさんだけでしっかりやっておいてください。終わったら、山田先生に報告してください。」
会話は以上です。
（3秒の間）
質問　これから三つの質問をします。それぞれの質問の後に解答を記入してください。
質問一　二時間目の授業は「数学」から何の教科に変更されましたか。
（15秒の間）
質問二　生活委員会は、何時からどこの教室で実施されますか。
（30秒の間）
質問三　担任の先生は、自転車の乗り方についてどんな点を気をつけるべきだと言っていましたか。二点挙げなさい。
（60秒の間）
以上で、聞き取りの問題を終わります。
それでは、次の問題に進んでください。

イ　課題の解決に向けた取組

聞き取り問題の結果から、「質問二」の解答状況に課題が見られ、主な誤答の要因として「時刻を正確に聞き取れていない」、「時刻か場所の一方しか聞き取れていない」ことが明らかとなったことから、「話すこと・聞くこと」の指導において、「目的や場に応じて、的確に聞き取ったりする」ことを重点的に指導する必要がある。

「聞き取る」という活動には、聞き手の思考や判断が伴うとともに、聞き取ろうとする積極的な態度が必要となることから、各学校においては、前ページに示した具体的な取組を参考にするなどして、「目的や場に応じて、的確に聞き取ったりする」力を一層高めることができるよう、各学校の実態に応じて、指導の工夫・改善を図ることが重要である。

なお、「話すこと・聞くこと」を主とする指導には15～25単位時間程度を配当し、計画的に指導する必要があることから、指導のねらいを明確にした年間の指導と評価の計画を立て、科目全体の計画のどの位置に、どのように「話すこと・聞くこと」の指導を設定するのか、生徒の実態に応じて各学校で適切に定めることが大切である。

また、生徒には、自分の言葉についての関心や理解を深め、社会人として必要とされる言語に関する能力を幅広く身に付け、言葉を通して好ましい人間関係を形成、維持していく力を身に付けていくことが求められており、国語科の指導を中心に、学校全体で生徒の言語活動の充実と適正化に向けて取り組んでいくことも必要となる。

(2) 「読むこと」に関する指導の改善・充実

ア　単元における指導と評価の計画の例

1　単元名　歌物語を読もう　～和歌と物語の内容との関係を考える～

2　単元の目標
- 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりしようとしている。（関心・意欲・態度）
- 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりしている。（読む能力）
- 文語のきまりを理解している。（知識・理解）

3　取り上げる言語活動と教材
(1) 言語活動　①和歌をもとに、物語を創作する。
②物語における和歌の役割について話し合う。
(2) 教　　材　『伊勢物語』

4　単元の具体的な評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
文章の構成や展開を確かめ、情景や心情を効果的に表現することができているか考察しようとしている。	文章の構成や展開を確かめ、情景や心情を効果的に表現することができているか考察している。	古典を読むことに必要な文や文章の組立て、語句の意味、用法について理解している。

本単元においては、物語における和歌の役割がとらえられている状況を「おおむね満足できる」状況「B」として設定し、本単元で扱った各章段における和歌の役割について考察しているなど「B」の状況から高まりが見られた場合を「十分満足できる」状況「A」として判断します。

5　単元の指導計画

次	学　習　活　動	言語活動に関する指導上の注意点
	本単元では、教材として、『伊勢物語』における業平と高子に関するいくつかの章段を取り上げ、物語の筋と和歌の内容の関わりについて「読むこと」の指導を行った後、ワークシートを活用して「武蔵野は」で詠まれている和歌の内容を基に、物語の筋を創作する。	・各章段の筋や、場面や人物の心情の変化を読み取るとともに、物語における和歌の役割について考えを深めさせる。
第１次	『伊勢物語』のいくつかの章段を通して物語の筋や、場面や人物の心情の変化及び物語における和歌の役割について学習する。	・各章段の筋をとらえさせるとともに、物語における和歌の役割に注目させる。
第２次	・『伊勢物語』の構成を確認する。 ・和歌の内容をとらえる。 ・物語の筋を予想する。（グループ）	・これまでの学習を振り返り、物語の筋と和歌との関連性を確認させる。
第３次	・ワークシートを活用して和歌の内容を基に、物語の筋を創作する。 グループでの予想を基に、生徒は各自で物語の筋を創作します。	・場面、登場人物、出来事と和歌のつながりがある記述となるよう意識させる。
第４次	・書き手の意図について考える。（個人・グループ） 生徒が各自で考えた物語における和歌の役割を基に、書き手が、歌物語という形式を採用した意図について、グループで考えをまとめます。	・物語における和歌の役割について考えさせる。 【評価Cの生徒への指導の手立て】 和歌の内容が、物語のどのような部分を強調しているかについて注目させます。

【参考資料】　　（原版はＡ４版）

ワークシート　単元名「歌物語を読もう」

○組　氏名　□□□□

物語の構成

(1)「昔、ある男がいた。」に続く形で書き始める。

(2)物語の途中に和歌が入る。和歌の内容につながるよう前後の物語を創作しよう。

(3)主な登場人物は三人とする。

登場人物①（　　）

登場人物②（　　）

登場人物③（　　）

(4)本文は『伊勢物語』九段（東下り）よりも前に書かれた話であることを踏まえて創作する。

創　作

昔、ある男がいた。

〈和歌に至るまでのストーリー〉

武蔵野は今日はな焼きそ
若草のつまもこもれりわれもこもれり

和歌の口語訳

〈物語の結末〉

本章段の原文及び口語訳については、生徒の実態に応じて、提示するタイミングを工夫します。

話し合い（物語における和歌の役割や書き手の意図について話し合ってみよう）

・
・
・
・
・

このことは、第１次における既習事項であることから、この部分に生徒の思考が深まったと判断できる記述があれば、指導の結果、「関心・意欲・態度」が高まったと評価することができます。

イ　課題の解決に向けた取組

学力テストの結果から、「読むこと」に関して、「文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること」に課題が見られた。

「読むこと」に関する能力を育成するには、高等学校学習指導要領の言語活動例に示されているように、文章を読んで脚本にしたり、古典を現代の物語に書き換えたりすることや、様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について感想を述べたり批評する文章を書いたりすることなど、生徒の実態に応じて指導をすることが重要である。

また、「読むこと」の学習では、主として読む活動が行われる。しかし、読むことの学習は、読む活動だけでは不十分であり、それだけでは読む能力も十分に身に付かない。話したり、聞いたり、話し合ったり、書いたりする言語活動を通してこそ、より効果的に内容を読み取り、読みを深め、指導事項に示された「読むこと」についての能力を身に付けていくことができる。

さらに、古典の学習においては、古文、漢文の現代語訳や文法的な説明に終始するものであってはならない。近代以降の文章と同様に、要約や詳述をしたり、想像力をはたらかせたりしながら読み味わい、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしていくことが大切である。

各学校においては、前ページに示した具体的な取組を参考にするなどして、生徒の実態に応じ、「読むこと」の指導の工夫・改善を図る必要がある。